



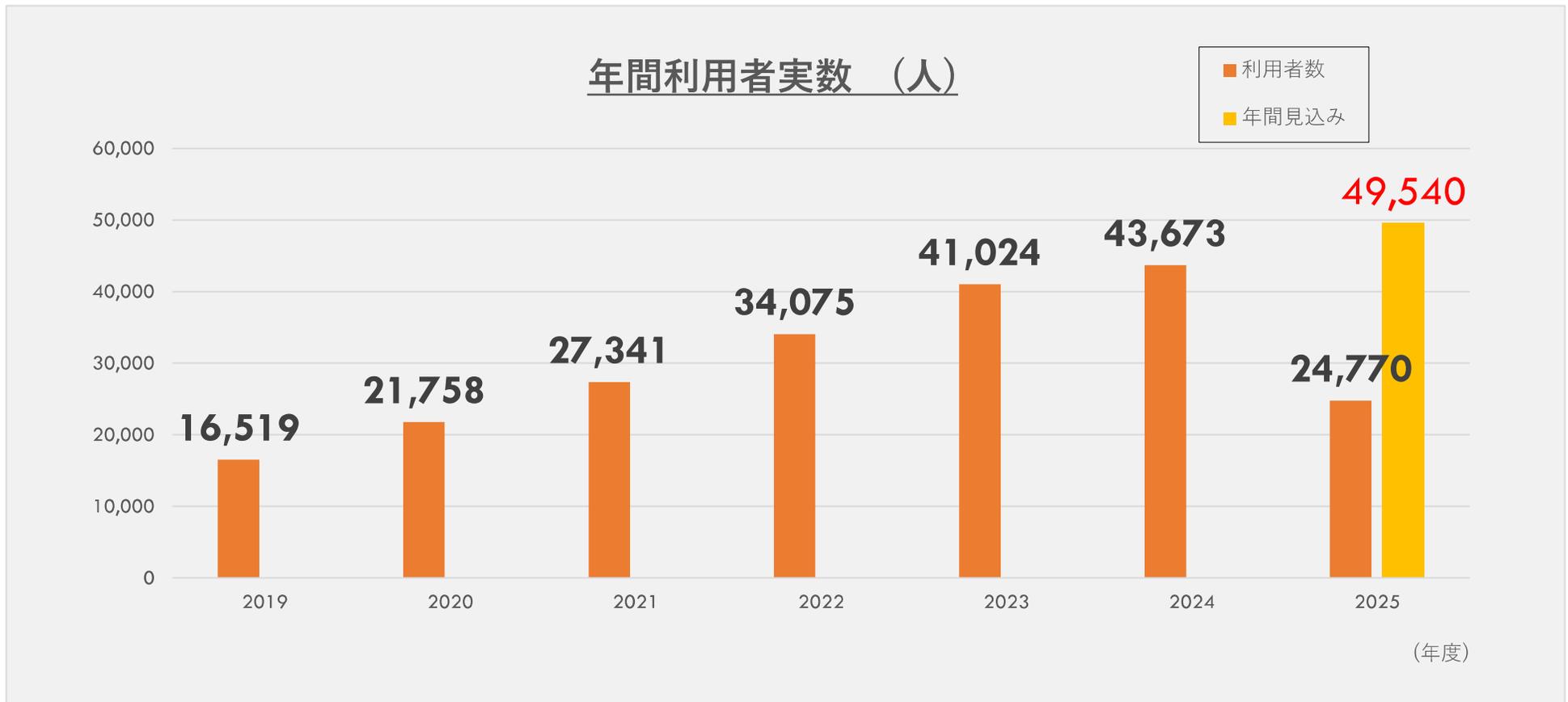
第1回尼崎市ユースワーク推進部会 ～令和6年度の取り組み及び令和7年度の運営について～

やりたいをやる。

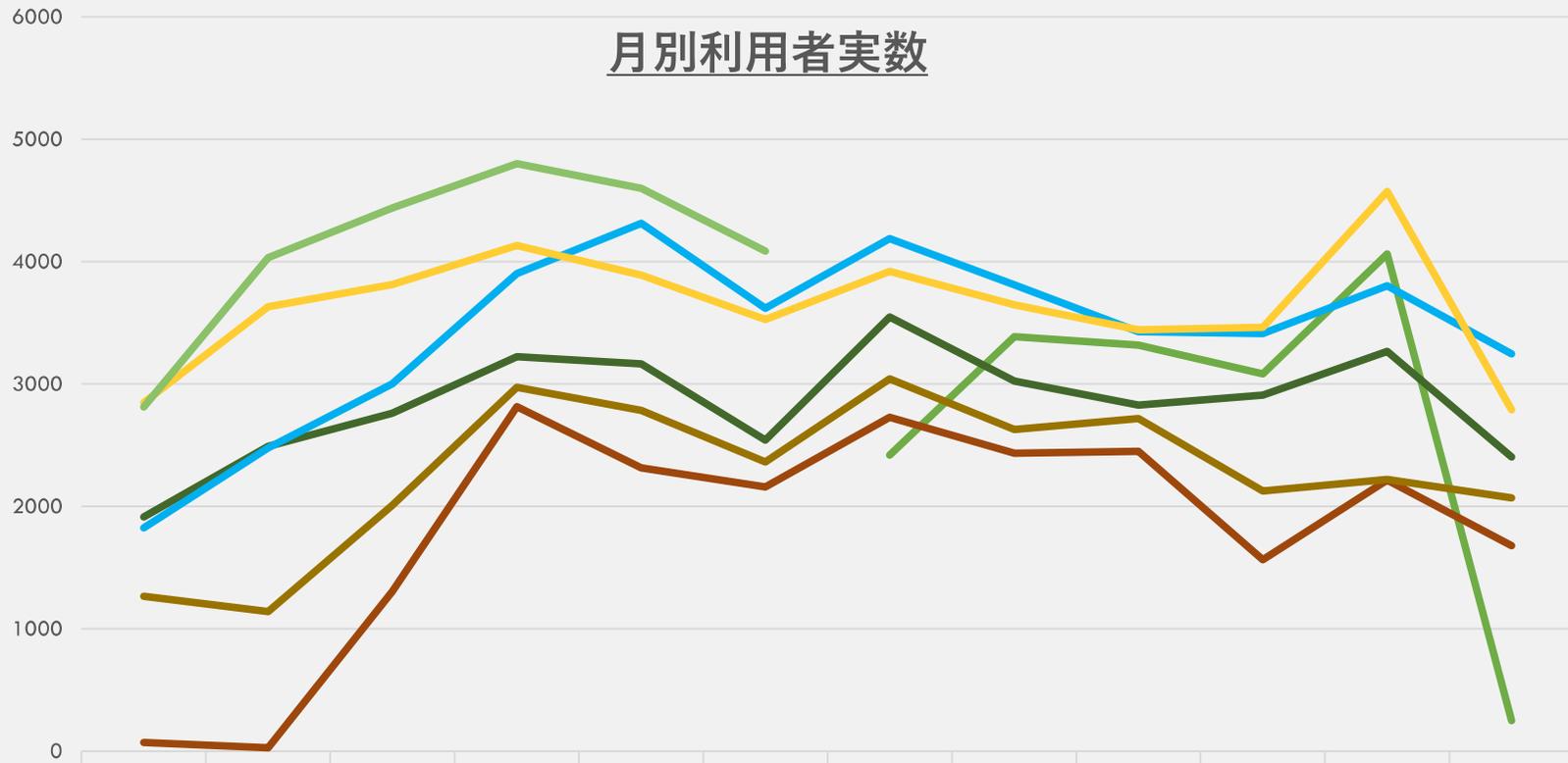
尼崎市立ユース交流センターは、青少年一人ひとりが
成長と自己実現ができる居場所を目指しています。

尼崎ユースコンソーシアム
Amagasaki Youth Consortium.

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
利用者数	16,519	21,758	27,341	34,075	41,024	43,673	24,770



月別利用者実数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年度							2419	3386	3320	3083	4063	248
2020年度	70	28	1304	2814	2313	2159	2728	2435	2448	1563	2217	1679
2021年度	1267	1140	2008	2972	2784	2364	3042	2630	2718	2125	2220	2071
2022年度	1914	2491	2762	3223	3164	2543	3547	3022	2828	2911	3267	2403
2023年度	1825	2476	3001	3904	4313	3620	4189	3809	3427	3411	3803	3246
2024年度	2848	3632	3812	4131	3890	3527	3920	3646	3441	3465	4573	2788
2025年度	2812	4032	4439	4801	4601	4085						

1. 青少年の居場所づくり事業

様々なニーズに応じていくために、オープンラウンジにゲームコーナーやPCタブレットの設置、電子ドラムなどの音楽スペースの設置を行った。また、様々なイベントを実施し、スタッフや中高生世代同士での交流を図れるよう工夫を行った。意見回収箱の設置ややりたいことリストなどを行い、利用者の声を拾い上げる工夫をした。

実施月	主なイベント	イベント数	参加人数	実施月	主なイベント	イベント数	参加人数
4月	お花見ピクニック レジンイベント	9本	103人	10月	5周年イベント ハロウィン	13本	243人
5月	奇跡の一枚 ご飯のお供選手権	9本	167人	11月	ひまつぶし ドイツお土産	13本	183人
6月	ごはんの日 LGBTQイベント	10本	169人	12月	クリスマスコーデ 大掃除	13本	156人
7月	ユースde進学相談 哲学対話	13本	225人	1月	書初め カコ今ミライ	12本	180人
8月	スタディイベント SportsDay	9本	150人	2月	オーバークック ポケポケ	16本	204人
9月	ごはんの日 フルイドアート	11本	166人	3月	これからのことを 語らう会	10本	116人
上半期 合計	-	61本	980人	下半期 合計	-	77本	1,082人



- ◆2024年度前半は過去人気なイベントを中心に実施し、イベント本数は減らしつつも、2023年度の同時期を比較して384名増のイベント参加者となった。
- ◆2024年度後半はイベント数も増やし、利用者の変化を生んでいけるような様々なジャンルのイベントを実施した。

1. ユースワーカー研修事業

地域においてユースワークの視点で青少年への支援を行うユースワーカーを養成する実践的な講座を実施した。実施については、ユースワーカー協議会等をお招きし、3月20日（木・祝）/3月29日（土）の日程で開催した。17名の参加者が受講した。また、各地域課と連携して全地区でも開催した。（大庄：12月18日4名、武庫地区：12月17日5名、中央地区：12月21日2名、立花地区：12月6日12名、小田地区：12月5日8名、園田地区：2月1日4名）

<感想>

- ・事例検討やリアルな現場の話をもっと聞きたい。講師の話が分かりやすく、シェアワークも充実していて楽しく学べた。
- ・こむずかしい話ではなく、ぶっちゃけた感じがすごくよかった。
- ・ケースワークで様々な方の意見を聞くことがとても参考になった。ユースワークの関心を深めることができた。



2. ユースカウンシル事業&その他

若者の声を市の施策に反映することを目的としたユースカウンシル事業を行い8月に市長・副市長等への発表を行った。様々な課題解決を目的としたプロジェクトも実施している。次期の募集も実施した。（23名参加）セクシャリティ教育等を含めたユースワークの推進にも取り組んだ

- 【テーマ例】
- ・メイクで困難を抱える若者の支援
 - ・精神疾患を抱える若者をサポートする人のサポート
 - ・定時制高校出身の大学進学への支援
 - ・若者の海外研修機会の創出

- ◆ユースワーカー研修は各地区での研修も定例化できており、全体研修は支援者だけではなく、保護者や若者の関りに悩んでいる層を対象に内容を変更して実施した。保護者層の参加もあり継続して行うやり方を考えていきたい。ユースカウンシル事業は8月に市役所職員向けにプレゼンを行った。今後も引き続き若者が社会に対して声を上げていく活動を増やしていきたい。

1. 青少年によるイベント企画事業

ユースセンターに来場する利用者全員を実行委員とし、オープン型の実行委員会を開催した。ユースセンター全体に関する運営に取り組んだ。中高生の「やりたいをやるう」というキャッチコピーのもと、一人ひとりの自己実現に向けた取り組みを実施した。

プロジェクト	内容
マジックショー	マジック好きな4名の中高生の企画イベント。本格的なマジックを楽しんでもらうことを目的にイベントを企画した。(4月29日25名参加)
心に残る死 ～安楽死を選ぶ勇氣～	安楽死というテーマで、福祉を学ぶ高校生1年生の利用者が企画したトークイベントを実施し、参加したメンバーと一緒に学び、考える時間でした。(6月6日10名参加)
Summer Youth Karaoke	新高校1年生を中心に企画チームを組んでスタート。みんなで盛り上げるにはどうしたらいいのか？などをいろいろと思索しながら、部屋の中の飾り付けなどにもこだわり、納得のいくイベントができた。(6月30日46名参加)
YOUTH GYM	整体に興味のあるスポーツ系の専門学生の企画で、みんなで体を動かすイベントを開催した。筋トレやストレッチなどを一緒に行った。(8回実施合計28名参加)
ボードゲームの日	ボードゲームが好きな利用者の発案でボードゲームイベントを開催した。(1月12日実施12名参加)
ポーカー練習会・大会	高校生4人の企画でポーカー体験を行うイベントを開催した。(2回実施合計18名参加)
陶芸風アクセサリ/編み物作り	編み物が好きな利用者と一緒にものづくりのイベントを開催した。(2月22日12名参加)
未成年の主張	大人が何を考えているかを知りたいと話す利用者が町の大人を招いて自分たちの疑問をぶつけるイベントを開催した。(3月12日2名参加)
卒業ワンマンライブ	大学卒業を控える利用者がバンドを編成し作詞作曲した新曲を披露するワンマンライブを企画した。(3月14日40名参加)
フットサル企画	フットサルが好きな高校生が様々な年齢の人と交流できるフットサルイベントを企画した。(3月27日10名参加)

◆ユース交流センターの運営を担う、ユース実行委員会の活動を行った。オープン型で開催し、定期的に利用者から意見を聞いて、運営を行った。(5回開催37名参加)

◆中高生が「やりたい」と思うものをプロジェクトにし、イベント企画を行った。全部で10つのプロジェクトが生まれ、「やりたいをやるう」というキャッチコピーをもとに、自己実現と交流をテーマに企画を行った。



1. 青少年向け体験型事業

青少年に向けて、テーマの講座や催し等を実施した。

講座名	開催月	開催数	参加人数（合計）
ギター講座	4月～3月	22回	48人
イラストルーム	4月～3月	23回	144人

- ◆利用者の声を聴きながら、2種類の講座を開催した。2023年度から実施しているギター講座は定着してきているが、利用者が減少傾向にある。イラストルームは人気のコンテンツになりつつあり、本講座を目標に参加する利用者も増えてきている。
- ◆次年度は講座のやり方や開催期間などにも考慮し、多種多様な取り組みを開催し、一人ひとりに合わせた体験を深める取り組みを実施していきたい。



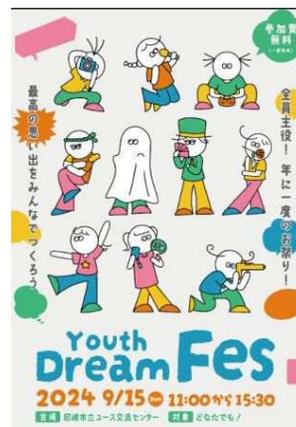
1. Youth Dream Fes

青少年の交流を目的として、9月15日にプラザ全体で大規模のお祭りを開催した。今年も文化祭の時期とずらして9月開催とした。

内容は中高生が起案し、総勢345名の参加があった。

【内容】

- ・音楽発表会/ダンス大会
- ・おばけやしき
- ・サバゲー大会
- ・ホストカフェ
- ・屋台 など
- ・フォトスポット
- ・スマブラ大会
- ・マジックショー
- ・押しグッズワークショップ



- ◆2024年度は7月から実行委員会を立ち上げ、メンバーを募集し、内容等を1から一緒に考えて実施した。
- ◆2023年度と比較し、ブースの出店も増えるなど、工夫が行われ、利用者が増加した。次年度に向けて、中高生だけではなく、大人も巻き込んでいく仕掛けをつくっていききたい。

1. ユース交流センターサテライト事業

地域の公共施設の貸館などを活用し、ユース交流センターのプログラムに参加できない層に対して、イベントなどを実施した。

地区名	主なイベント	開催月	実施数	参加人数（合計）
武庫地区	武庫地域課と連携して武庫之荘総合高校での放課後カフェを実施した。（居場所カフェ）	4月～3月	8回	239人
小田地区	小田地域課と連携して居場所運営と様々なイベントを実施した（夏祭り/アウトドア/ミュージックフェス）	4月～3月	6回	638人
園田地区	ポノポノプレイスと連携して双星高校での居場所カフェを実施した。	4月～3月	17回	2,223人
立花地区	立花地域課と連携して居場所運営とイベントを実施した。また、市立尼崎高校での探求授業を実施した。	4月～3月	13回	476人
中央地区	中央地域課と連携して小学生の居場所運営を行った。（絵本作り/ゴミ拾い/カバディ）	4月～3月	6回	82人
大庄地区	大庄地域課と連携してイベント企画立案を実施した。	4月～3月	12回	62人



- ◆2024年度は6地区でイベントや居場所の運営を行った。青少年の居場所を身近に創ることを目的に、地域課と一緒に取り組んだ。学校との連携を増えてきており、今後も地域内でユースワークの視点を広め、地域ごとに研修などを実施していきたい。
- ◆利用者としては、ユース交流センターに来ていない層が参加しており、後日センターに来てくれることや、センターに来ている利用者がサテライトの居場所に通うなどの機会が増えてきており、身近に居場所があることの効果が出てきている。

1. 情報収集・発信事業

利用促進や情報公開としてホームページを開設するだけでなく、中高生世代が多く利用しているSNSを作成し、定期的に情報発信を行った。また、チラシやパンフレットを作成し、市内の公共施設等に配布を行い、利用促進を行った。

○SNS登録状況

年度	X (旧Twitter)	インスタグラム	Facebook	LINE@
2019年度	274フォロワー	152フォロワー	183フォロワー (169いいね)	227 (友達)
2020年度	408フォロワー	284フォロワー	298フォロワー (253いいね)	447 (友達)
2021年度	534フォロワー	519フォロワー	473フォロワー (410いいね)	520 (友達)
2022年度	650フォロワー	720フォロワー	598フォロワー (516いいね)	624 (友達)
2023年度	801フォロワー	972フォロワー	726フォロワー (605いいね)	699 (友達)
2024年度	880フォロワー	1,221フォロワー	802フォロワー (655いいね)	850 (友達)

- ◆2024年度も利用者の意見もありInstagramに力をいれて広報を実施した。イベント内容や施設情報などを週3～5日程度で発信を行い、登録者数を少しずつ増やしていった。今後も定期的に発信を行いつつ、利用者同士で紹介してもらえるように工夫しながら広報を実施していきたい。また、SNS広報についてはチラシよりも費用対効果が高い可能性があるため、SNS広報についても次年度以降検討していきたい。

1. 利用者アンケート

2024年12月5日～28日の期間でアンケートを実施した。アンケートについては、以下の利用者に受付にて用紙の配布を行い、協力をお願いした。

・あまぽーと利用者 ・アマブラリ図書コーナー利用者 ・アマブラリ学習室利用者 ・貸し会議室等利用者
合計401名の回答を得た。（2023年度398名）

詳細については別紙「アンケート結果報告書」を参照。

利用者の声
ボードゲームをもっとふやしてほしい
つくえやいすをふやしてほしいです！！
食事をとれるフリースペースを増やして欲しい。特に1人用
図書館の本棚と本をもっと増やして欲しい
スマブラ大会をかいさいしてほしい

利用者の声
ラジカセの調子が悪いです
かくしゅう場所でうるさくしないでほしい
自習室の明確なルールを設けて、SNSなどに残していただきたいです。匂いをするものを食べたり、騒いだりする方がちらほらいるっしゃるのが少し気になりました。
小中学生がフリースペースで大騒ぎしていたり、そのグループが頻繁に自習室を出入りする音が集中を妨げる時があるので予防策ができれば嬉しい。

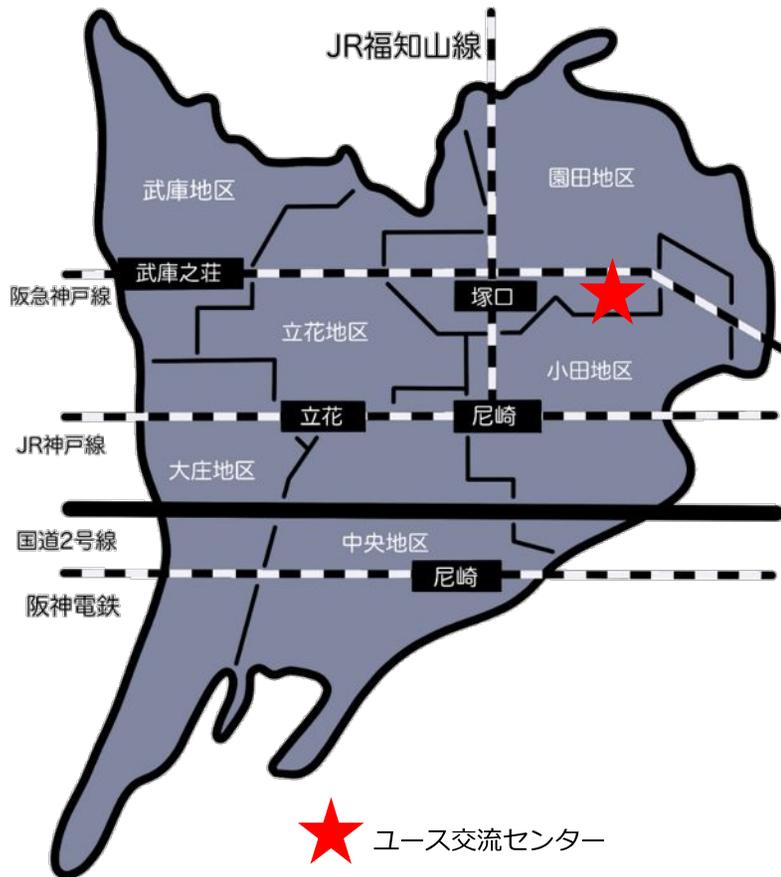
- ◆利用者からの要望としては、いすや机、ボードゲームなどの遊び道具をもっと増やしてほしいというニーズが多かった。オープン会議などで意見を求めているが、引き続き利用者の声を聴きながら運営を行っていきたい。
- ◆学習室やアマブラリ3階の利用について意見をいただいた。マナーがよくない利用者も一部いるので、頻繁な声掛けや一定のルールを設ける等、みんなにとって過ごしやすい環境を整えていきたい。

1. 達成目標

	目標 ※カッコ来期目標	実績 ※カッコ昨年実績	課題や今後の方向性
来館者数	86,000人 (85,000人)	82,042人 (78,472人)	8万人を突破したが、目標も達成することができなかった。今後は利用者の数を増やすだけでなく、利用者の満足度が落ちないようにも気を付けていきたい。
青少年の 来館者数	70.0% (65.0%)	中高生の利用 63.2% (63.0%)	小学生や大学生の利用も増えてきており目標を達成することは出来なかった。Instagramなど若者向けの広報を積極的に実施していきたい。
青少年グループ 登録数	84団体 (120団体)	102団体 (70団体)	音楽スタジオの利用などが増え、目標を達成することができた。今後も若者のやりたいことを応援できるように周知していきたい。
施設利用率	59.09% (60.00%)	54.60% (49.24%)	利用団体も増え、利用率も上昇した。多くの方に利用してもらえるように、団体数向上に向けた取り組みも強化していきたい。
青少年で構成される実行 委員会数	15名 (延べ50名)	延べ37名 (6名)	2024年度はより多くの利用者から意見がもらえるように、オープン型の会議を設け、様々な意見を聴きながら運営を行った。
市内学校 との連携	小学校41校 中学校17校 高校13校 との連携	高校を中心に 利用案内などを実施	高校訪問などを実施し、SSWや行政機関含め連携が出来つつある。今後は近隣の中学校などにも積極的にアプローチしていきたい。

ユース交流センターサテライト事業

「身近にユースセンターがある生活」を目指し、若者の活動拠点の整備を尼崎市地域課職員および地域団体の方と一緒に実施した。



園田地区：双星高校での居場所カフェ

立花地区：たちばなユーススペースの運営サポート

→ +市立尼崎高校での探求サポート

武庫市区：武庫之荘総合高校での居場所カフェ

小田地区：ODAイベント

中央地区：たけやキッズパーク → 琴ノ浦高校での居場所カフェ

大庄地区：大庄ユーススペース

ユースワーク研修事業

地域においてユースワークの視点で青少年への支援を行うユースワーカーを養成する実践的な講座を実施した。

令和6年度ユースワーカー養成講座

参加無料

「わかってあげたくても、わからない」
令和の中高生・若者のホンネに寄り添い、心に火を灯す

はじめてのユースワーク講座

いつも遅く帰ってきて
すぐ部屋にこもる高校生の
子どもが何を考えているのか
わからなくて不安

放置したいわけじゃない
けど、聞わろうとすればする
ほどギクシャクする

若者を募集・育成したいが、
令和の時代の
関わり方がわからない

3月20日(水祝) 13:00~16:00
ユース交流センター アマプラ1F 多目的室
テーマ 思春期のホンネに向き合う
※主に保護者の方向け

3月29日(土) 13:00~16:00
ユース交流センター アマプラ1F 多目的室
テーマ 若者の意欲をかき立てる
※主に一般・企業の方へ向け

講師 経験豊富なユースワーカーが
中高生・若者との関わり方をお伝えします

竹田 明子氏
ユースワーカー協議会 事務局長
京都市ユースサービス協会

今井 直人氏
ユースセンターはなれ代表
阪神尼崎ユースセンターHygge

対象
・教育関係者や福祉職、地域活動・企業等、
地域で青少年に関わっている方
・青少年の保護者の方 など
「ユースワーク」に関心をお持ちの方
であれば、どなたでもご参加できます

内容
・ユース交流センターの見学
・講師によるトークセッション
・具体的な若者との関わり方ワークショップ

申込
参加申し込みは
右のQRコード又はお電話まで

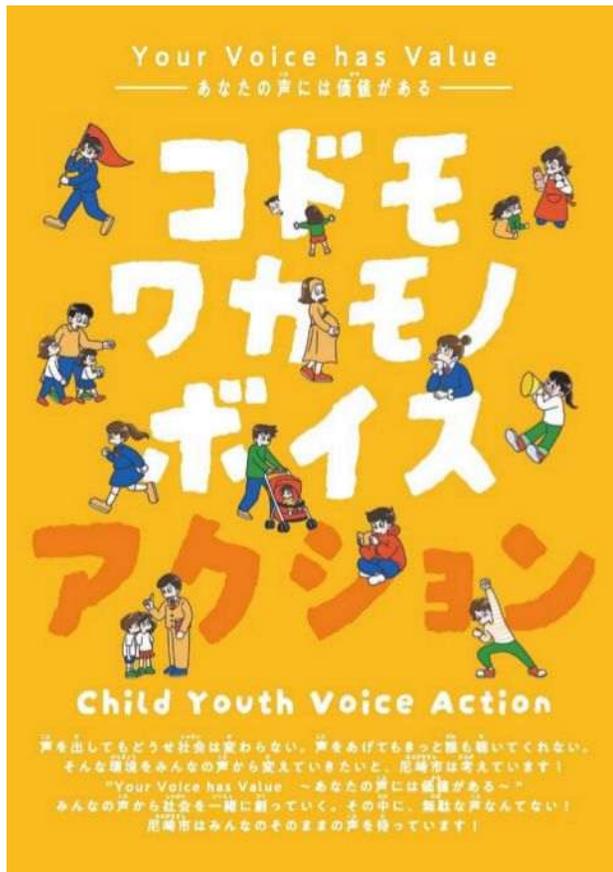
主催・問い合わせ
尼崎市立ユース交流センター
Tel 06-6423-7788 / Mail info@youthconso.jp



ユースワーカー養成研修とは別に各地区でユースワーク説明会（勉強会）を開催している。また夏の教員研修の一環として、ユースワークの取り組みについて教員向けに研修を実施しました。令和7年度は「保護者向け」「一般向け」に分けて、開催をする予定。また、市政課題研修に位置付けて、ユースカウンスル事業の当日に市職員に参加いただいた。

こども若者意見聴取事業（別事業）

子ども若者意見聴取事業として、オンラインプラットフォームを活用したコドモワカモノボイスアクションの取組を実施した。



令和6年度は、こども計画の策定に向けて、ワークショップを2回実施し、またパブリックコメントに向けた意見聴取も実施した。2025年度は、様々なテーマを設けて、意見聴取を実施している。また8月には市職員向けの研修も実施し、子ども若者の意見を聴くにはどうすればよいのか等を、子どもの権利の視点からレクチャーを実施した。

- ・ユースワークの推進に向けた学校との連携について
- ・困難を抱えた若者支援の最近の動向について
(親を頼れない / 住む場所がない 等)